

「子どもから大人へ」「学校から社会へ」の移行を支援します

堺(松原)に2012年3月開所(予定)

「学ぶ作業所」

ぽぽろスクエア (仮称)

「もっと学びたい」
「力を付けて社会へ」
障害者自立訓練(生活訓練)事業を行います

案内



- I. 自己表現の力を高める
- II. 自己決定ができる力をつける
- III. 自分を知る力をつける
- IV. 生活する力をつける
- V. 進路と権利を考える力をつける
- VI. 余暇活動を豊かにする力をつける

特定非営利活動法人 大阪障害者センター

<連絡先>大阪障害者センター

〒558-0011 大阪市住吉区苅田5丁目1-22

☎06-6697-9005 (fax06-6697-9059) e-mail: GSP22335@nifty.com

ぽぽろスクエア はこんな作業所です

広げよう、卒業後の学ぶ場を 大阪にも!

障がいのある青年の
ねがい実現へ



障がいのある子どもたちは、一つのことを習得するのにとっても時間がかかります。それなのに学校で学べるのは18歳まで。現在、支援学校高等部卒業後の一般的な進路は、一般就労か作業所に行くかです。そうではなく、仲間がいて、わいわい一緒に学ぶことができる、生活体験をよりゆたかに積み、ゆっくりと自分発見をする、楽しく青春する時間がある、そんな場としての「学ぶ作業所」が「ぽぽろスクエア」です。

将来、特別支援学校高等部や高等学校の卒業後さらに2年間、教育の場として、専攻科の実現を願っています。



大阪障害者センターがつくれます

2年間の自立訓練（生活訓練）と就労継続支援B型の多機能型事業として、地下鉄御堂筋線「北花田駅」東南徒歩約15分の所に開所予定です。

大阪障害者センターは、1994年に障害者・家族の集える場をつくりたいという府民の方々の幅広い協力を得て開所しました。それ以来、障害者・家族・関係者と行政・府民をつなぐ窓口として、また、はばひろい障害児者・家族の相談や研修、調査活動等を実施しています。大阪発達支援センターぽぽろは、大阪障害者センターの子育て・教育部門で、発達相談や児童デイサービス等の事業も行っています。

大切にしたいこと

- ゆったりとした環境のなかで“楽しい”を第一にする。
- 楽しみや悲しみを共にし、人とつながる。
- 自分さがし、自分づくりを経て、新しい自分を築く。



プログラム(案)

- **生活プログラム**
身だしなみ、料理、洗濯、掃除、健康管理、挨拶、コミュニケーション、性教育、いのち
- **経済プログラム**
計算、税金、買い物、郵便局、銀行、お金、電車、パソコン、新聞
- **特別プログラム**
講師を呼んで特別講座、人権学習、野外活動、ものづくり、音楽、絵画、書道、劇、スポーツ
- **余暇活動プログラム**
趣味のサークル活動など
- **進路支援プログラム**
職業体験、職業安定所、基礎年金、各種手続き、進路相談(随時)、オープンキャンパスへの参加
- **自主(ゼミ)活動**
自分の調べたいことを調べ、つかむ、交流
- **年間行事**
旅行、季節の行事、行事の企画・運営・反省・まとめ

●ぽぽろスクエア(SQUARE)の意味

ぽぽろはイタリア語で「人々」、スクエアは英語で「広場」。様々な思いの頭文字を集めてSQUAREとし、「多くの人が自由に集う広場」にしたいと考えています。

S - study (スタディ・学ぶ)

U - universal (ユニバーサル・万人の)

R - relax (リラックス・くつろぐ)

Q - quintet (クインテット・5重奏)

A - accord (アコード・調和)

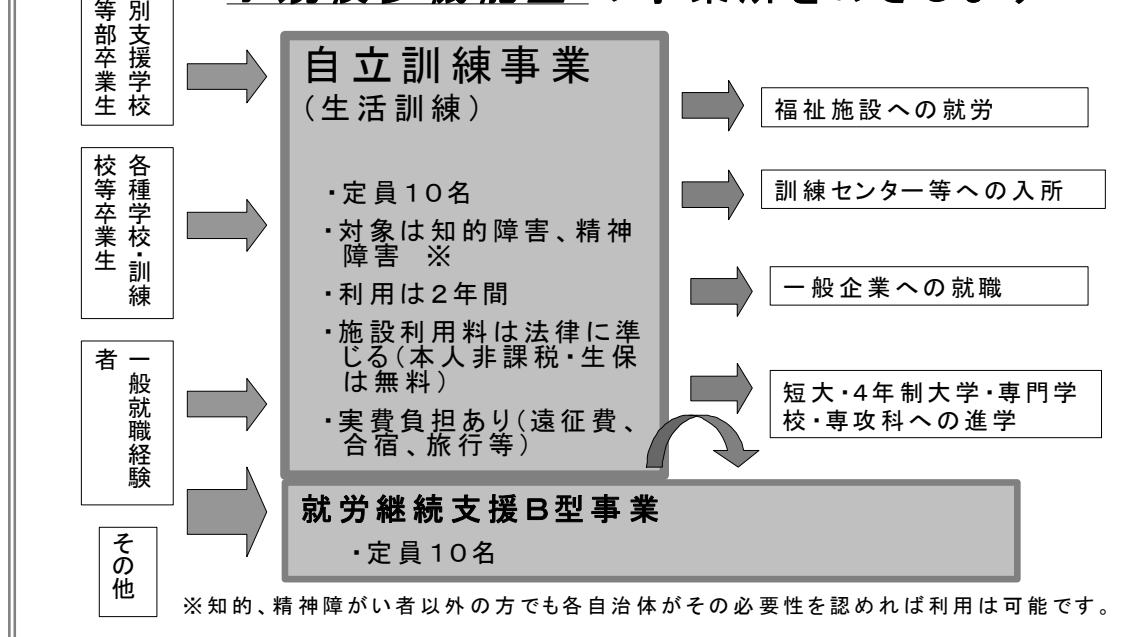
E - enjoy (エンジョイ・楽しむ)

週 時 程 案

	月	火	水	木	金
9:30~10:00	朝の会				
10:00~12:00	生活プログラム (一週間の見通しを立てる)	経済プログラム	生活プログラム	特別プログラム	ゼミ活動
12:00~13:00	昼食・休憩				
13:00~15:00	特別プログラム	進路支援プログラム	余暇活動プログラム	特別プログラム	生活プログラム (一週間の振り返り)
15:00~15:30	終わりの会				

『ぽぽろスクエア』

小規模多機能型の事業所をめざします



Q 1. 特別支援学校高等部や高校を卒業した後にも学べる「専攻科」があると聞いたのですが？

A 私立特別支援学校(養護学校)には高等部3年間の学びの後に2年課程の専攻科を設置している学校は全国で8校あります。しかし、国公立特別支援学校では視覚・聴覚特別支援学校を除いては鳥取大学附属特別支援学校1校にしか設置されていません。専攻科では青年期の「学校から社会へ」「子どもから大人へ」のスムーズな移行が可能になる教育実践や職業準備教育をめざしています。

Q 2. 専攻科のある国があるのですか？

A お隣の韓国では国公立の支援学校高等部に専攻科が設置され学びの期間が延長されています。

昨年1月、大阪府内で「卒後の学ぶ場・専攻科を考えるつどい」が開かれ、大阪府交渉でも障害のある青年が卒後の学ぶ場の必要性を切々と訴え、大阪府に実現を求めてきました。

Q 3. どうして『ぽぽろスクエア』をつくることになったのですか？

A 大阪府教育委員会は一般就労100%をめざす高等支援学校の整備やすべての支援学校高等部に「職業コース」を設置して、早期からの職業教育を重視することに力を入れるという考えです。

そうではなくて、青年期の自立を支援するには特別支援学校高等部専攻科の設置が不可欠だと思います。特別支援学校高等部に専攻科を設置させ教育年限を延長させるとりくみは「第三の教育権保障運動」といわれています。

しかし、すぐには実現が困難なため、専攻科での移行支援教育に最も近い福祉の制度＝自立訓練（生活訓練）事業を活用して学びの場をつくることにしました。この自立訓練と就労支援継続B型をあわせた多機能型事業所を「学ぶ作業所」＝『ぼぼろスクエア（仮称）』と呼んでいます。

この事業を大阪障害者センターが行うことは大阪府内はもとより全国の専攻科設置の運動を励まし、ゆたかな青年期の移行支援の実践と担い手づくり、障害者・家族の切実なニーズに応えた「学ぶ作業所」づくりを大阪府内各地域に広げていくことにつながります。

また、青年期の「学校から社会へ」「子どもから大人へ」のスムーズな移行支援が、その後の就労や作業所での活動に大きく貢献できると考えています。

Q 4. 事業主体の大阪障害者センターとはどんな法人ですか？

A 大阪障害者センターは障害者・家族・支援者の様々な権利を擁護する運動に40余年間とりくんできた諸団体が共同で立ち上げたNPO法人です。障害者・家族の切実なねがいを関係者と一緒に掘り起こし、制度化をすすめています。

当センターの子育て・教育部門である大阪発達支援センターぼぼろも国による「放課後等デイサービス事業」の制度化を実現させてきました。また、放課後・長期休業に利用できる長時間保障の児童デイサービスを事業化しました。また、教育相談や、保護者・指導者向け講座を開いています。自律・自立をめざす青年のクラスも設けています。

今回の「学ぶ作業所」の取り組みは、学齢期における「第三の世界」を保障してきた取り組みを、さらに青年期へと広げていく取り組みの一つに位置づけています。

Q 5. これまでの作業所とはどこがどう違うのですか？

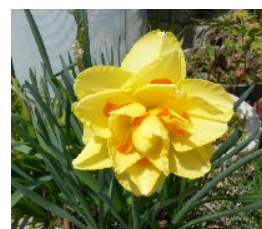
A 作業所においても卒業生が不適応を起こさないように柔軟な受け入れや、作業ばかりではなく積極的に学習や余暇支援などにも取り組んでいます。

『ぼぼろスクエア』（自立訓練事業）は、「工賃」を生み出す作業を中心とした日課とは異なる「専攻科」のカリキュラム・教育実践を、自立訓練事業という枠組みの中に取り入れた事業になります。

したがって「青年期」の利用者の、「もっと学びたい」という要求を積極的に受け止め、ゆったりと大人へと移行していくための取り組みとして、「学ぶことや経験を広げること」「自分を出せる力や自分を見つめる力をつける」などを中心とした教育的な支援を主たる内容とする点が大きな特徴といえます。

Q 6. 『ぼぼろスクエア』（自立訓練事業）を利用できるのはどんな人ですか？

A 利用できる方は療育手帳と精神保健福祉手帳をお持ちの方で、開所時間までに自力で通所が可能な方です。身体障害者手帳しかお持ちでない方でも、市町村が地域の実情を踏まえ利用されたい方のニーズや必要性を認めて自立訓練事業のサービス利用決定を行えば利用は可能です。



Q 7. 利用希望者が定員（10人）を上回る場合はどうなるのですか？

A 一日の利用希望者が多い場合には最大定員の150%＝15人までが利用可能となっています。しかし、「専攻科」の「学年・クラス運営」のように基礎となる集団を形成し、毎日の継続的な指導を大切にしたい運営をしようとする、定員の10名前後が望ましいと考えます。そのうえで、週に1～2回利用される方の利用も考えられます。

ですから、お一人お一人のご希望や様々な条件を考慮に入れて調整させていただくこととなります。

Q 8. 就労支援継続B型事業はどんな方を対象にして、どんなことをするのですか？

A 一般企業等での就労が困難でも、働きたいと願う方を対象とし、三障害いずれも利用が可能です。

内容としては、現在、障害者センター内の無認可「ポポロ作業所」が取り組んでいる名刺やニュース印刷などの軽作業です。それに加えて、『ぼぼろスクエア』敷地内にある畑を利用した農作業、木工、新たな仕事おこしを考えています。

また、仕事を支える労働観や生活の力、就労意欲を向上させるためのプログラムを重視した活動を予定しています。

こうした取り組みを中心としながら、工賃収入についても、できるだけ向上できるように、個々の利用者の状況に合わせた仕事の開拓をすすめていきます。

Q 9. 利用料はどうなるのですか？実費負担はあるのですか？

A 利用料は基本的には今の障害者自立支援法にもとづく利用負担となります。18歳以上の方は本人所得が基本となりますのでほとんどの方が利用者負担はありません。

ただし、学校で行ってきたような行事や社会見学・体験等のための費用、合宿、旅行、教材費などの実費負担はあります。



Q10. 昼食はどうなるのですか？

A お弁当等の持参か、希望者には近くにある作業所の配食弁当（500円程度）を手配する予定です。

Q11. 「学ぶ作業所」はどんなスタッフで運営されるのですか？

A 「学ぶ作業所」の中心スタッフは福祉職員ですが、カリキュラム内容によっては退職教員等が経験と得意分野を生かしてスタッフとして加わります。福祉と教育の連携による事業を創造していきます。

Q12. 自立訓練事業は2年間の有期限と聞きましたが、2年後の進路はどうなるのですか？

A 「自分さがし・自分づくり」の青年期教育は2年間で十分とは決して言えません。進路先は多様な場が予想されます。専攻科への進学や訓練校、福祉的就労や一般就労などが考えられます。

こうした進路等についても、十分ご本人のご希望に沿って、移行できるよう支援していきます。

Q13. 学ぶ作業所（自立訓練事業）に通えるのは2年間だけですか？

A はい。自立訓練事業は国が定めた2年間の有期限の事業です。ただし、すでに他の事業所で自立訓練（生活訓練）事業を利用された方は利用できません。

Q14. 既卒生も利用できるのですか？

A 利用できます。既卒者が改めて学び直そうと自立訓練事業のサービス利用決定を受ければ可能です。

Q15. 「学ぶ作業所」を利用したい場合にはどうしたらいいですか？

A 本会事務局（大阪発達支援センターぽぽろか大阪障害者センター）までご連絡・ご相談ください。また、特別支援学校等に在籍の方は担任や進路指導担当の先生にもご相談ください。

希望する当事者と保護者の方の面接を行い、利用を希望される方の希望登録を行います。

利用契約は3月の開所予定には間に合うように、自立訓練事業と就労継続支援B型事業の多機能型事業所としての事業認可が大阪府から下り次第、行います。

基本的には、「障害程度区分」認定を必要とはしませんが、新卒で就労継続支援B型を利用できない場合もありますので、ご希望の際に十分ご相談ください。

Q16. 今後説明会や体験学習などの計画はありますか？

A 保護者や進路担当の先生を対象にした『ぽぽろスクエア』の事業説明会や、自立訓練事業で行うとりくみの体験会も計画しています。

Q17. どうしたら情報を得られますか？

A 日常的にはブログ「ぽぽろスクエア」で行っています。また、堺（松原）に「学ぶ作業所」をつくる会の会員さんにはニュースを発行して情報をお届けします。また、会員さんを対象にした専攻科や他県にある「学ぶ作業所」の見学会なども行っています。

Q18. 保護者会はありますか？

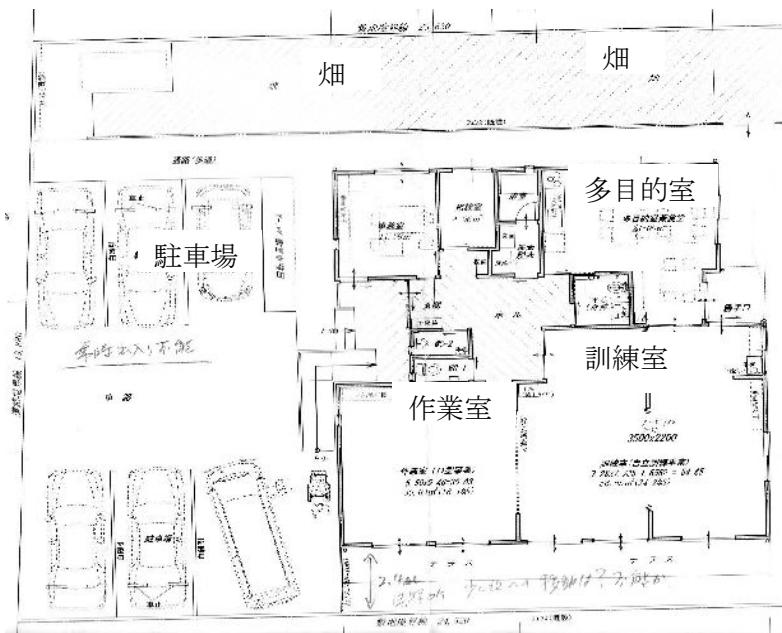
A 私たちのそもそものねがいは専攻科の設置にあります。『ぽぽろスクエア（仮称）』はそうした大阪府内の関係者のねがいと支援によって建設されます。『ぽぽろスクエア』を支える取り組みは勿論のこと、専攻科設置をめざす運動や「卒後の学ぶ場・専攻科を考えるつどい」などのとりくみをすすめるためにも保護者会は必要だと考えています。

Q19. 『ぽぽろスクエア』はどんな建物になりますか？

A 松原市に建設予定の建物『ぽぽろスクエア』の見取り図（案）です。土地の広さは478.09 m²で、建物部分は160.04 m²です。

この図の上方が北側で、敷地内が畑となっています。

「専攻科」（自立訓練事業）は「訓練室」を中心に学び、1年次生と2年次生で分けて活用することもできます。



Q20. 『ぽぽろスクエア』へのアクセスを教えてください。

A 「ぽぽろスクエア」付近の地図です。



- <アクセス方法>
- 公共交通機関ご利用の方
 - 地下鉄御堂筋線「北花田駅」下車、徒歩約20分。
 - 南海バス布忍線「我堂西」「南花田町」バス停から徒歩約500m・5分。
 - 自家用車ご利用の方
 - 大阪高石線（府道28号線）「北花田」交差点を東へ曲がり府道187号線の「西我堂」バス停を南へ右折。もしくは、府道28号線「蔵前町西」交差点を東へ曲がり府道12号線の「南花田町」交差点を北へ左折。

Q21. 『ぽぽろスクエア』にボランティアに行きたいのですが、どんな活動がありますか？

A 外出の付き添いや館内の清掃、畑・花壇の世話などがあります。

その他、様々な応援をいただく機会もありますので、ご希望があれば、スタッフにご相談ください。

<応援メッセージ>

青年からのメッセージ

私は高槻から来ました。峯松愛です。私は、3年前に養護学校を卒業して、今は、作業所で働きながら、週に1回ほぼろのヤングクラスに参加しています。高等部の3年間は、とても短かったです。

私は、わかるのにとっても時間がかかります。ゆっくり教えてもらったらわかることがいっぱい増えます。でも、学校で勉強する時間はぜんぜん足りませんでした。

ヤングラでは、パソコンを教えてもらったり、みんなはギター、私はキーボードを練習して、発表をしたり、みんなで料理を作ったり、合宿をしたり、いろいろなことをしています。私は一人では何もできないけど、みんなが助けてくれます。そして毎回、みんなでたくさんのお話をします。次に何をするか考えて決めたり、一週間で振り返ったり、悩みを話合ったりします。とっっても、盛り上がる時間です。

私は、ヤングラに来ると、いつもホッとします。

私は、できないことだらけなのに、人にちゃんと頼めないし、わからないことだらけで、何をしたいかわからないし、だめなところがいっぱいあるけど、そんな自分を許して、受け入れて、次に進もうと思えることが、ヤングラに来るとホッとする理由かも知れないと思ってきました。「頑張った自分をほめて、自分を好きになろう」そんなふうに思えることは、私にとって、とても大切なことだと思います。これからも、もっと自分を好きになって、何もできない私でも、自信をもって、やりたいことがやれるようになりたいです。

作業所に行って、何か違うこんなんでいいのかな?とすっきりしなかったのは、もっと勉強して、いろいろ知りたいことがいっぱいある、もっと自分を知って、自分を好きになりたい。自分の事は、自分でちゃんと考えたい。そんな気持ちがあったからだろうかと、最近になって気づきました。私は、ヤングラに出会えてよかったと思います。

高等部の後に専攻科があったり、ヤングラのような場所が家の近くにもたくさんあれば、「こんなんで、いいのかな?」と悩まずに、自信をもって前に進めると思います。

(峯松 愛 大阪府立支援学校卒業生 2011年2月22日「つくる会」総会)

僕はほぼろにやってきて今年で2年になります。僕は療育手帳を持っている当事者です。僕は中学時代の先生の紹介でほぼろに行きました。最初は冷やかしのつもりで行ってたけど、もう2年もほぼろに関わっています。僕はこれまで待ち合わせに1時間半遅れたり、花火大会に全身ペイントしたり好き勝手やって来ました。今まで僕のキャラだし、OKだと思っていたし、そういうことすることがロックンロールの生き様であると思っていました。最近どうやらそうでもないかもしれないかなということが少しわかってきました。時間や場所などが決まっても、その時間に行くまでどこかで計画が崩れてしまいます。人が当たり前前にしていること、出来ると思っていることを、するのも僕には大変な労力がいります。今、なんとか向き合い、時間はちゃんと守れるようになりたいと思います。

あと学力面についてですが、知的障害を持つ人は知的に遅れがあるので、通常の教育を受けられないと思われがちですが、僕は五年間ライフワークとして英会話の勉強を続けてきました。そして昨年英検3級を取得しました。英会話は学校も5年間行っています。僕のように好きなことを見つけてずっと自分に合ったペースで続ければ成果は出てくると思います。僕のように障害がある同じことを何度でもやり続けなければ成果は出ないと思います。失敗を重ねることも必要です。僕も道端で外国人の人と話して恥もたくさんかきました。ですがその失敗と恥ずかしさもすべていい経験になります。

そんな僕らが高校卒業後も学び成長するためにも専攻科は必要だと思います。みなさんがこの専攻科の応援をしていただき、ご尽力いただけたらうれしいです。そしてみんなで願いをかなえていけたらいいなと思っています。

(太田 航 大阪府立支援学校卒業生 2011年2月22日「つくる会」総会)

教育関係者からのメッセージ

私が現職の時に、支援学級に在籍していた子どもたちの保護者から、支援学校の高等部を卒業したが、「なかなか職に就くことができない」「就職はしたが長続きしなかった」など、たくさんの身に詰まる切実なお話を耳にしている、自分も何かできたらいいなあと、ただ漠然と考えていました。

そんななか、松原(堺)に「学びの作業所」という話も、まったく無いところからスタートし、ト部先生や東先生、障害者センターのご尽力により、あれよあれよという間に話が進みました。先日には立派な作業所の図面もできあがり、本日総会の運びとなりました。これも、たくさんの方々の熱意の賜物だと思います。

「学びの作業所」が開設され、子どもたちが一日でも早く活動できることを願っています。

(土地を貸して下さる元金岡北中学校教頭 北野 伸昇氏よりメッセージ)

様々な障害のある青年たちにも、なかまとともにもっと学ぶ場が、今求められています。「学ぶ作業所」は、なかまや多くの人たちと出会い、交流し、学びを広げていく、そして社会参加する力をつける場です。全国でも先駆的なこの試みの趣旨にご賛同いただき、施設の建設にご協力くださいますようお願いいたします。

(湯浅恭正 大阪市立大学大学院教授、堺(松原)に「学ぶ作業所」をつくる会会長)

保護者からのメッセージ

あたらしい風の会から来ました忠永です。

私の子どもは小学校2年生です。こういった学ぶ作業所のような場所がこれからいくつもできれば、子供はもちろん、保護者がどんなに落ち着いた学童期を過ごせるだろうかと思います。私たちのような学童期の母は見通しがたたない分、不安になり、学校以外の場所でも補わねばと考えがちです。うちの子も放課後の学校以外の世界をみせたいとガイドヘルパーも頼み、スイミングも行って、言語療育、体育療育にも通っています。本当は子供自身を一番よく見てやらないといけない時期に居場所探しばかりに必死になっているように思います。

この学ぶ作業所のもう一つすばらしいと思うところは、先程の説明にあったように教育の取り組みにあると思います。教員経験のある先生方の協力で、しっかりとしたカリキュラムを組んで学び直しができるとなれば、こんなにありがたいことはありません。ここで風の会の他のお母さん方からの意見も紹介したいと思います。

一人のお母さんからは、「心のケア」が気になる、というお話が出ました。様子がおかしいときは学ぶ作業所や家庭などがしっかり連携しあってケアしてほしい。そういった相談機関としても期待されているようです。学校ではうまくいかなかったという落ち込んだ気持ちを、もう一度、学びなおすことで復活させてやりたい、自信を取り戻してやりたい、そういった場所にもなってもらえれば、と願っています。

また、対象が高校卒になっていますが、高校を中退したとしても入れてほしいという意見も聞かれました。中学校までをやっと過ごしてきた不適應の子どもたちの受け皿になってもらえないかと、私も思っています。ゆくゆくは、学ぶ作業所での学習を高校の単位として換算してもらえないだろうかと思ったり...

これからもこういった会に参加して勉強させて頂こうと思っています。

(忠永 憲子 あたらしい風の会)

わたしの娘は地域の小学校の支援学級を経て現在支援学校の中学部の2年生です。

中学になり、高等部を卒業後の進路について考え始めた際に、私も和歌山で「フォレスクール」を創設された出口さんと同じく、自分がした経験を娘にも味あわせてあげたい、せめて二十歳までは学校生活をさせてあげたいと思いました。また、障害がありひとつの事を習得するのに時間がかかる子なのに、どうして「学ぶ」ことに関してはENDが決まっている事にも納得できませんでした。

わたしは娘には高校生活の中で、集団の中での仲間意識や、自分自身で選択・決定ができ、自信を持って行動できる力や失敗を乗り越える力、そしてひとつのことをやり終えた後の達成感をきちんと感じる力が学校という集団の中でしっかりと身につけてほしいと望んでいます。個

別指導と就労教育のみにベクトルが向いている現在の状態では、「作業ができる障害者」を作ることが出来るかもしれませんが、「本当の意味の社会人」を育てることが出来るのだろうか?という思いを強く持っています。

「専攻科」のカリキュラムの中には、もしかしたら、「個人の習い事」の中で出来ることもあるかもしれませんが、しかし、青年期には仲間の中で友情を育みながら、いろいろなことを経験していくことが大切だと思います。この時期にふさわしい教育の場所としての学校としての形態を持つ「専攻科」が本当に必要なのだと思います。

今回、先駆けとして堺に「学ぶ作業所」が出来てを本当にうれしく思います。これをきっかけに「障害児が学べる高等部卒後の教育の場」が大阪府内全域に広がり、希望する障害児全員がそこで学べる環境を作っていくように保護者のひとりとして頑張っていきたいと思います。

(大同 美佐 岸和田市)

<連絡先>

- 特定非営利活動法人大阪障害者センター

〒558-0011 大阪市住吉区苅田5丁目1-22

☎06-6697-9005 (fax06-6697-9059) e-mail : GSP22335@nifty.com

<http://www.npo-osc.com/>

- 堺(松原)に「学ぶ作業所」をつくる会(事務局;大阪発達支援センターぽぽろ)

〒538-0051 大阪市鶴見区今津北1丁目11-32

☎06-6964-0703 (fax 06-6964-0704) e-mail : poporo-hattatsu@nifty.com

堺(松原)に「学ぶ作業所」をつくる会とは?

堺(松原)に「学ぶ作業所」をつくる会(以下「つくる会」。会長は大阪市立大学大学院教授・湯浅恭正氏)は、特別支援学校高等部や高等学校などを卒業してからも学びたいという学生・青年やそれを支援するご家族、学校・施設などの関係者が手をつないで「ぽぽろスクエア・専攻科」(「学ぶ作業所」)をつくるための募金活動やバザー、見学・学習会、「ぽぽスクだより」ニュースによる情報提供などの活動をしています。

また、特別支援学校高等部に希望すればだれでも進学できる専攻科を設置させるために、全国の専攻科実現をめざす団体といっしょに国や大阪府にはたらきかける運動をしています。

趣旨にご賛同いただき、活動のお手伝いをして頂ける方はどなたでもご入会いただけます。会費は年会費で個人1口1,000円、団体1口5,000円です。

詳しくお知りになりたい方は事務局の大阪発達支援センターぽぽろか大阪障害者センターの「つくる会」事務局にご連絡ください。

また、ご入会の手続きは郵便振替で下記の口座番号に必要事項を記入の上お振り込みいただければ会員になれます。

口座番号「00940-3-272467」

加入者名「特定非営利活動法人 大阪障害者センター」

※ 通信欄に「つくる会」会費とお書きください。